

1 はじめに

熊本市中学校体育研究会では、研究テーマを『自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方』とし、県中体研・学体研と連携を図りながら授業実践を行ってきた。今年度は九州学校体育研究発表大会に向け新学習指導要領を視野に入れた教育課程の編成や実施上の課題、学習指導の改善と工夫及び充実を図り取り組んだ。また「学びわくわく中学校授業研究会」（熊本市教育委員会・各教科研究会主催）では熊本市内中学校の3校に授業を依頼し授業研究を推進した。今年度は九州学校体育研究発表大会の公開授業のための研究会も行い、さらには熊本市養護教諭部会と連携をとり養護教諭とのTT授業も積極的に取り入れ、より専門性に高い保健授業の展開を目指した。

2 研究組織

- 会 長 新垣 力 (天明)
- 副会長 大園 隆明 (龍田) 諏訪園 勉 (江原) 金森 勲 (北部) 香山 悟 (東町)
海津 英孝 (武蔵) 南 弘一 (京陵)
- 顧 問 安方 史宜 (健康教育課)
- 理事長 田中 省三 (北部)
- 副理事長 廣瀬 弘忠 (武蔵) 一安晋太郎 (鹿南) 吉田明日香 (西山) 船津一真 (植木北)

	校 名	ブロック理事
東	白川・湖東・帯山・東野・錦ヶ丘・二岡・東部・西原・東町・長嶺・桜木	松田 直浩 (東町)
西	藤園・花陵・京陵・西山・江南・三和・城西・井芹・芳野・河内・熊大附属	吉田明日香 (西山)
南	出水・城南・江原・託麻・出水南・飽田・天明・力合・日吉・富合・下益城城南	藤野有美子 (下益城城南)
北	竜南・桜山・楠・武蔵・清水・北部・龍田・鹿南・五霊・植木北	廣瀬 弘忠 (武蔵)

3 活動状況

活 動	月	内 容
総会準備委員会 市中体連・中体研総会 県中体連・中体研第1回評議委員会	4月	本年度の活動計画・予算案作成・ブロック理事選考 本年度の計画等 県活動計画・確認
県中体研推薦委員会・理事長会	5月	推薦委員会 (長嶺)
市中体研評議員・理事合同会議 県中体連総務委員会 九州学体研実行委員会	6月	本年度の研究会計画 (環境センター)
県央地区実行委員会 九州学体研実行委員会研究部会 県中体研実技講習会・県理事長会	7月	チーフ会確認 (力合) 指導案検討 (第一高校) 研修・検討 (天草有明中)
九州学体研実行委員会研究部会	8月	指導案の確認、日程確認、会場設営等 (第一高校)
学びわくわく中学校授業研事前研究会 学体研実行委員会・第2回県央実行委員会	9月	指導案の確認、日程、指導助言者との打ち合わせ、 会場設営等 (力合)
学びわくわく中学校授業研究会 第3回実行委員会	10月	西原・芳野・出水 事前打ち合わせ
学体研実行委員会 県学校体育研究発表大会	11月	(森都心・力合)

第2回県中体連評議員会	1月	松屋本館
学校体育功労賞受賞祝賀会 市中体振興会総会・第4回理事長会	2月	(熊本テルサ) (ネストホテル)
学びわくわく担当者会	3月	1年間のまとめと来年度に向けて

2 研究テーマ

自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習のあり方
～転移する知識・技能を活用し、探求していくグループ活動の構築を目指して～

5 研究の概要

(1) 研究の方法

- ・学びわくわく中学校授業研究会の授業研究・準備・運営・参加・まとめ
- ・九州学校体育研究発表大会の授業研究・準備・運営・参加

(2) 研究の柱「学習内容を明確にした指導と評価の一体化」

- 研究の視点
- 視点1 「3年間を見通した具体の評価規準」の検証
 - 視点2 基礎・基本の習得→活用力育成→自ら学び考える力の育成
 - 視点3 言語活動を重視した取組
 - 視点4 健康の保持増進と体力の向上
 - ※ 熊本市授業づくり5つの視点

○学びわくわく中学校授業研究会 10月12日 《 授業内容 ・ 授業者 》

<東> 3年 体育理論「文化としてのスポーツの意義」 授業者 西原中 原 辰徳

<西> 2年 球 技<ネット型> (バレーボール) 授業者 芳野中 松村 誠

<南> 3年 保 健「感染症の予防」 授業者 出水中 上野 洋一

丸山三智子

○九州学校体育研究大会 11月22日

2年『陸上競技(ハードル走)』 授業者 鹿南中 一安晋太郎

3年『体育理論「文化としてのスポーツの意義」』授業者 力合中 米田創一朗

6 まとめ

本年度は九州学校体育研究発表大会の授業実施に向け、授業研究を中心に体育領域・保健領域の授業研究・実践を行ってきた。これまでの取組から学習内容の明確化や3年間を見通した授業づくりと熊本市体育研究会の「4つの視点」や「熊本市授業づくり5つの視点」が定着し内容も充実してきている。また、学びわくわく授業研究会では、授業を作り上げていく中で「自ら進んで取り組む体力の向上」と「楽しさを感じる保健体育授業」の2点を中心に研究を行い、熊本市の先生方の意識や研究心も高まった。

体育理論・保健領域では、主体的、対話的で深い学びに結ぶための効果的なグループワークや協働的活動を積極的に取り入れるとともに養護教諭との積極的なTT授業を推進し、学びわくわく授業研究会にて提案授業を行うことができた。

今後は更に本会の先生方の資質向上と指導力を磨き、県中体研と連携を図りながら、熊本市の体育研究を推進していきたい。